

プロサッカー選手の社会的スキル及びライフスキルの再認識と社会転用

Recognizing anew and social conversion of a social skill and the life skills
that the professional football player have.

1K05B207

松尾 竜聖

指導教員

主査 堀野博幸先生

副査 倉石平先生

1. 序論

Jリーグでは、毎年約 130 人の選手が新たに加入し、そして同数の選手が Jリーグを離れ、そこでセカンドキャリアという問題にぶつかる。引退選手の平均年齢は 26 歳で、約 7 割を 20 代の選手が占めています。中でも 20 代前半に現役継続か否かのターニングポイントが訪れる。選手として活躍できる時間は短く、その後の人生のほうが長いのである。しかし、サッカー選手は、サッカーが終わると何をしたいかわからない、サッカー以外で自分に何ができるか自信がないと感じ、社会に適応できずに、「社会的死」を遂げる選手がいるのが現状である。このことは、どの種目のトップアスリートも同様の問題として抱えている。特にサッカーの場合は引退年齢が 20 代前半と比較的早く、納得した引退ができないということがある。そのときに、社会のことを知らず、周りからのサポートがない場合、より社会に適応したり、次の目標をもって上手く切り替えることが困難になる。また、プロのサッカー選手は世間一般からサッカーばかりしてきたので勉強ができないし、一般常識が欠けているというイメージを持たれがちのような気がする。そのようなイメージは決してプロ選手にとって有利なものではないし、選手自身も勉強をしてこなかったことや、社会についての知識や経験についてコンプレックスを持ってしまふかもしれない。しかし、本当に社会に出て必要なのは学校の知識や社会を知っているということだけであろうか。社会の中で人間関係を上手くやっつけられる力や、ライフスキル、社会的スキルといったものも必要であると考え。そして、そのような能力はプロサッカー選手

をはじめトップアスリートは高いのではないかと考えた。そこで本研究はトップアスリートの社会的スキルやライフスキルが高いことを証明し、その能力を普段の生活やセカンドキャリア選択時、またセカンドキャリア移行後の人生で十分に生かすために選手時代に何をすべきか、どんな機会や制度、サポートを必要とするのか、そしてキャリアについて意識をもってもらえるように、どのように選手自身にアプローチしていくかということを模索するために行った。

2. アンケート

調査方法としては、Jリーグ経験者(J1、J2に在籍したことがある選手)にスポーツ場面、スポーツ以外の普段の生活場面というシチュエーションに分け、社会的スキルを包括したライフスキルを計るアンケート調査を行った。その結果、スポーツ場面とスポーツ以外の場面でスキルの差が生じた。同時にトップアスリートの社会的スキルやライフスキルが高いことが示された。多くの場合、スポーツ場面のほうがスポーツ以外の場面より高いスキルを示す結果になった。

3. インタビュー

そして、アンケートの結果をもとに何故スポーツの場面とスポーツ以外の場面でこのようなスキルの差が生じたのか、また生じたと考えるのかを、アンケートに答えてもらった内の選手にインタビューをした。また同時に Jリーグキャリアサポートセンターについての認知度や活動自体の浸透性、そして選手が求めるサポート制度や機会もインタビュ

一し、その回答を基に分析した。なおインタビューはテープレコーダーに音声で収めている。インタビューの回答で最も多くの人々がキーワードとしてあげたのが「自信」、「経験」、「慣れ」であり、スポーツ場面で発揮しているスキルを、スポーツ場面以外の場面で生かせていない原因としては圧倒的に勉強や知識不足によることがわかった。またそのコンプレックスから社会に出ることに抵抗感があり、社会を体験することができていないのである。しかし、逆により多くのサッカー以外の経験をすることで知らないことに慣れてきて、抵抗も少なくなり自信が生まれてくるということがわかった。対象者もスポーツ場面以外への進出を望んでいるということも明らかにされた。

4.まとめ

アンケートやインタビューによりプロサッカー経験者は社会的スキル・ライフスキルが高いことが証明された。そしてプロサッカー選手は勉強や社会的知識の不足をコンプレックスとしてもっていて、それがスポーツ以外の場面において自分の持っているスキルを発揮できなかつたりするため、社会に抵抗感を持っているようである。しかし、社会に対して全く興味がないわけではなく、社会に対しての関心は強かったのも、上手く JCSC をはじめとする機関が社会に触れる機会を選手が利用しやすいようにサポートしてあげることができれば必ずスポーツ以外の場面でも、そして社会でも高いスキルを発揮できる。またキャリアについて考える機会をユース年代からしっかり伝えていかなければならない。